

3-5 意見・要望

問 13 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ち、また、避難期間中の住宅や居住環境や生活において困っていること、改善を求めることなど（医療、教育、介護・福祉、就労、コミュニティなど）をご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望や気持ちなどについて、2,353 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

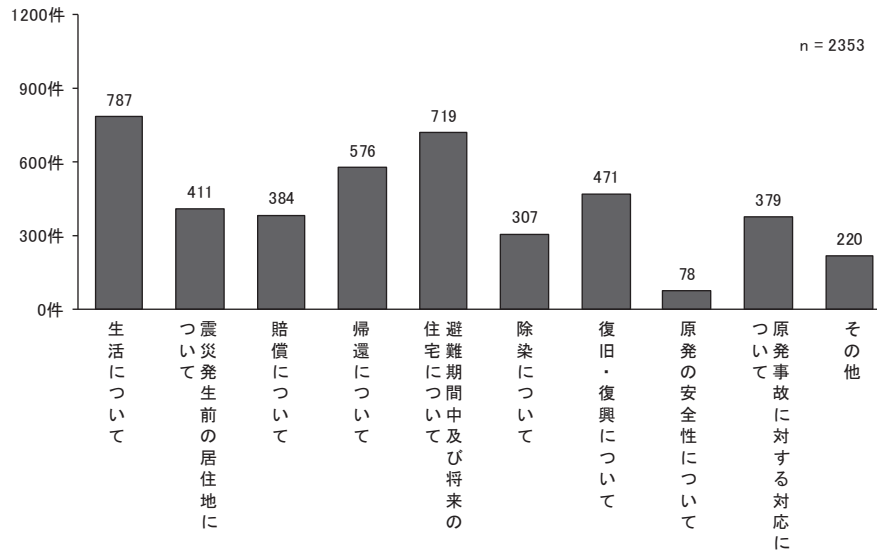
<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難生活の長期化への不安 ・元の生活が取り戻せるかどうかの不安 ・元の生活、安定した生活の回復 ・元の生活に戻ることについてのあきらめ ・現在の生活の経済的な不安について ・現在の生活の健康に関する不安について ・現在の生活の仕事・学業に関する不安について ・現在の生活全般の不安について ・将来の生活の経済的な不安について ・将来の生活の健康に関する不安について ・将来の生活の仕事・学業に関する不安について ・将来の生活全般の不安について ・生活（再建）支援について ・その他 	<p>●除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除染作業の意義について ・除染作業にかかる費用の他への活用について ・除染作業の効果などについて ・除染作業の実施箇所などについて ・除染作業の早期・迅速・的確な実施について ・除染作業スケジュールの明確化について ・中間貯蔵施設について ・その他
<p>●震災発生前の居住地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還困難区域への立入りについて ・帰還困難区域等の設定について ・所有する住まい・土地の買取りについて ・自宅の現状（被害状況）について ・自宅の再建・改築・解体について ・元の住居や土地などの管理・処分について ・元の住居や土地に対する税について ・その他 	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復旧・復興の遅れ、長期化について ・復旧・復興のスケジュールについて ・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について ・町村合併について ・ライフライン・インフラの整備について ・社会福祉施設の整備について ・医療施設の復興・充実について ・学校の復興・充実について ・商業の復興・充実について ・住民の参加・自助努力について ・早期の原状回復・復興実現について ・その他
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賠償内容・方法について ・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について ・その他所有する住まい・土地に対する賠償について ・その他 	<p>●原発の安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃炉作業の迅速な実施について ・廃炉作業全般について ・その他
<p>●帰還について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還への不安 ・帰還可能時期の明確化について ・帰還したい ・帰還しない ・現時点では帰還の判断ができない ・帰還に関する施策について ・帰還を望まない人への対応について ・その他 	<p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政や東電の対応について ・対応の長期化、遅れについて ・情報の開示・発信について ・中長期的スケジュールについて ・その他
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興公営住宅の早期・迅速な建設について ・復興公営住宅の建設地・形態等について ・復興公営住宅に係る経済的負担について ・復興公営住宅への入居が可能かどうかの不安 ・復興公営住宅への入居について ・居住場所の確保について ・借上げ住宅について ・住宅の購入について ・その他 	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のエネルギー政策について ・行政に対する謝意、励まし ・その他

※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。
 ※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「生活について」が787件と最も多く、次いで「避難期間中及び将来の住宅について」が719件、「帰還について」が576件などとなっている。

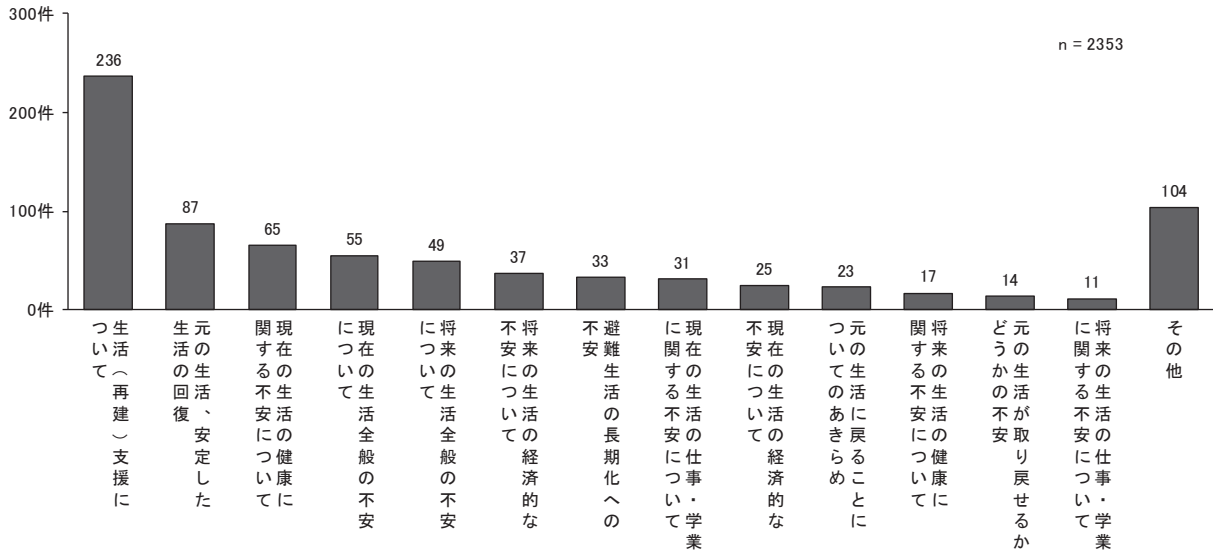
<図表3-5-1 意見に係る記入内容の分類結果>



(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、「生活（再建）支援について」が236件と最も多く、次いで「元の生活、安定した生活の回復」が87件、「現在の生活の健康に関する不安について」が65件などとなっている。

<図表3-5-2 生活についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【生活（再建）支援について】

- 福島県内に避難している知人・友人・親せきは色々物資が届いているらしいが、県外に避難している私達には2・3回目頃以降何も届かないのが不満です。(30代)
- 高速道路や医療費が無料なので助かっています。収入がない状態なので今後も続けてほしい。(60代)
- 避難していて何かと住民票、その他の証書を取りよせるので、もっと簡単にしてほしい。ムダが多すぎると思う。(40代)

【元の生活、安定した生活の回復】

- 歩く事や日常の買物が便利な所、また医療にも近い所で暮らしたい。(70代以上)
- 家族全員で暮らしたい。子どもが安全で過ごしていける様になってほしい。(30代)
- 難しいのはわかるが、早く見通しを立ててほしい。津波（被害）だけの人たちとは違うため、福島浪江の人達は余計な不安感がある。心身ともに安定した生活を送りたい。(40代)
- 早く元の生活がしたい。親類や友人など遠く、なかなか会えなく困っている。(60代)

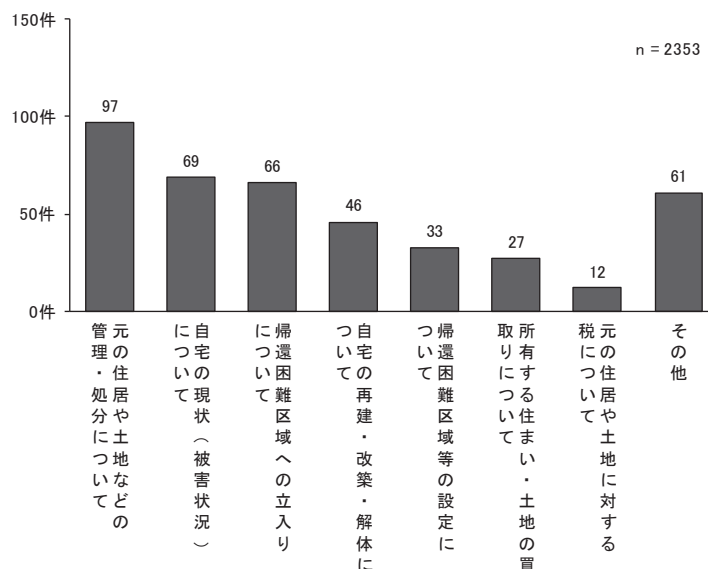
【現在の生活の健康に関する不安について】

- 被災から4年目に入り避難生活が長びいているため、精神的な苦痛が倍増している。うつ病になっている人が増加。帰りたくても帰れない！（70代以上）
- 今の借上げに住みはじめてから、家族のみんなの体調が思わしくなく、入院、手術が続いて不安ばかりです。浪江町で生活していた時に近い生活がしたいです。(70代以上)
- 体調をくずし仕事を休んでいます。住居も定まらず健康も経済面も先の見えない不安な毎日です(60代)
- 慣れない土地での避難生活はストレスがたまって夜が眠れなくて不安です。これからの健康管理が心配で難しい。(50代)

(2) 震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「元の住居や土地などの管理・処分について」が97件と最も多く、次いで「自宅の現状（被害状況）について」が69件、「帰還困難区域への立入りについて」が66件などとなっている。

<図表3-5-3 震災発生前の居住地についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【元の住居や土地などの管理・処分について】

- 被災地にある個人の不動産についての始末について（売却について）相談や指導を得たい。（70代以上）
- 除染後の土地管理は自己管理ということであるが、高齢者や遠距離避難者には管理は困難なことであり、放置すれば除染前の荒れ放題の土地となる。管理面での組織づくり等、町として何か対策はあるか。（70代以上）
- 震災前に住んでいた住宅が帰還困難区域のため、そのままの状態なので、一日も早く家の中をかたづけて、使えない家財を捨てることができるようにしてほしい。（60代）
- お墓の修理、屋根の修理、線量が高すぎ民間業者は誰もやってくれない！！国・県・町から修理業者をぜひとも紹介してほしい！！（50代）

【自宅の現状（被害状況）について】

- 「ネズミ」の被害が甚大で、浪江町への帰還については困難ではないかと考えている。ネズミの被害で家中が目茶苦茶である。（70代以上）
- 浪江の家の屋根が壊れて、雨モリ、カビにより住めない状態になっている。（60代）
- 家が帰宅困難区域にあり、帰宅するたびに道路の草、家の中でのネズミ被害に絶望感でいっぱいになります。（60代）

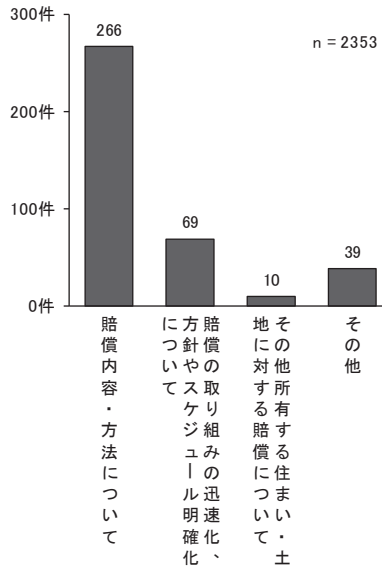
【帰還困難区域への立入りについて】

- 一時帰宅を簡単に入れる様にして欲しい！車を自由にするなど、今は指定のナンバーしか入れないので不便！また知人の車で行く時なども楽に！！（60代）
- 一時帰宅した時に泊まれる施設があるようお願いしたいと思います。いこいの村を懐かしくとても残念に思っています。（70代以上）
- 震災発生当時に浪江町外に住んでいた家族も「自宅に一時帰宅するため」の通行の自由化を強く望みます。（現在は「浪江町臨時通行証」の交付手続きが必要である。）（70代以上）

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が266件と最も多く、次いで「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について」が69件、「その他所有する住まい・土地に対する賠償について」が13件などとなっている。

<図表3-5-4 賠償についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【賠償内容・方法について】

- 家が残っている方々は補償（建物）されているが、流されて何も無いのに建物（土地など）から購入し、生活するのは大変です。同じ町民でも賠償が違うのはおかしいと思います。（30代）
- 賠償が不公平、帰還困難とすぐ隣合せの地区なのに居住制限区域となったばかりに賠償に差がありすぎる。おかしい。（40代）
- 浪江町も、大熊町、双葉町のような扱いをしてもらえると良いと思う。賠償の面で、違いがありすぎると思う。（50代）
- 国の一存で線引きされ、同じ町民でも賠償面で差があり、帰れないのは同じなので同様に賠償して欲しいと思います。何か人間として扱われていない錯覚を感じます。もう忘れられた存在のようで悔しさで一杯です。（60代）

【賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について】

- 迅速に賠償請求（今後の）を進めてほしい。1つ1つの賠償請求が遅いと感じている。（30代）
- 東電からの賠償はいつまでなのかがはっきりすると、生活再建もプランを立て易い。（40代）
- 東電の賠償がスムーズに進むように要望します。借地の為なかなか進みません。（50代）

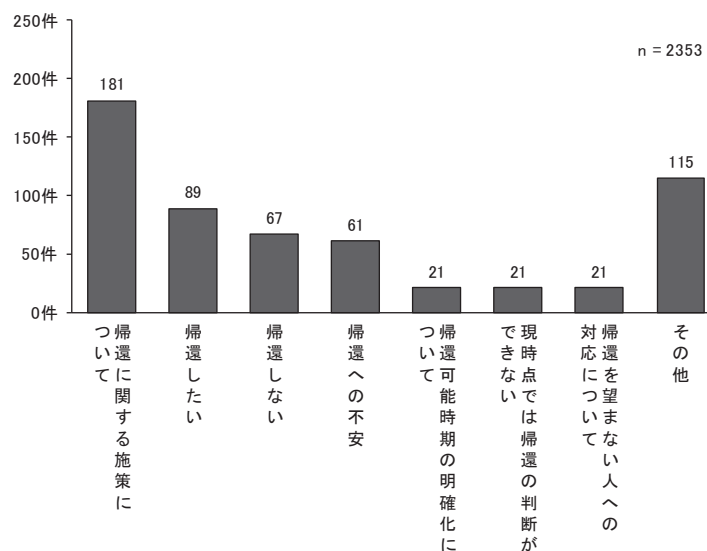
【その他所有する住まい・土地に対する賠償について】

- 避難していて、自分の家に住んでいないのに住宅のローンは払っている。いくら借上住宅で家賃がかからなくてもおかしいと思う。震災時からのローン分を東電に出してほしい。人が住まない住宅は傷みが激しくなる一方です。（40代）
- 動物、ネズミ、泥棒に壊された家は完全に補償してほしい。（70代以上）
- 自宅の賠償を納得のいくかたちで、早く行ってほしい。次へのステップの考えもまとまらず、いつも不安定なままです。（40代）

(4) 帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還に関する施策について」が181件と最も多く、次いで「帰還したい」が89件、「帰還しない」が67件などとなっている。

<図表3-5-5 帰還についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【帰還に関する施策について】

- 若い世代はほとんどの人が「帰らない」という方向らしいですが、避難先で仕事や生活が根づいている人が多いと思います。無理に全町民帰還をすすめる事はたして町のためになるのか疑問です。(30代)
- 町に戻ることが前提で話が進み、戻りたい住民や、役所にくっついて動いている住民がすべてが優先されているように感じる。すべてにおいて平等にしてほしい。(30代)
- 自分は仕事の関係で浪江に住んでいたが、やはり地元の人には帰りたいという気持ちが強いです。帰還を希望する人達の要望は最大限尊重してあげてほしいと思います。(40代)
- 第一原発の放射線物質が安全に除去できる目処がつかずまで帰還すべきでないと思います。(60代)

【帰還したい】

- 今までの様な浪江町になるのは、何年先かわかりませんが、元気でいたならば浪江町高瀬に戻りたいです。(70代以上)
- 本当に浪江に戻れるのなら、何年後でも戻りたいです。(40代)
- あの日からもう3年半。娘の家で世話になり、何も不自由な事はないにしても、住みなれた我が家へ帰りたいと思う気持は変わりません。でも帰れないのが現実。なさけない、悲しい、生きているうちにもう一度あの家で、あの町で、普通の暮らしをして見たい。老婆の願いです。(70代以上)
- 年齢的にはあきらめているが自宅で最後の時をむかえられたらとの思いがあります。(70代以上)

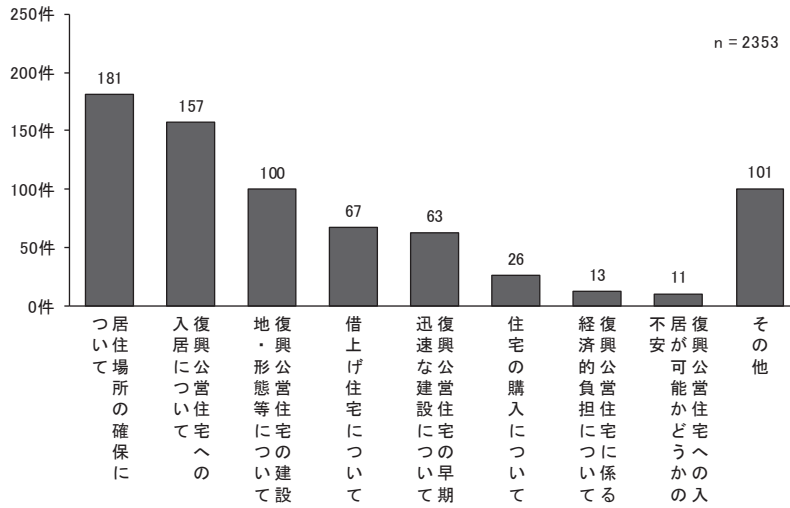
【帰還しない】

- 浪江町に戻りたいのは山々ですが孫達のことを考えて、福島市内に住宅を新築しました。(60代)
- 浪江町の実家は、帰還困難区域にあり、帰還は絶望的であると考える。(50代)
- 原発があの状況では帰れないです。常に原発の状態を気にしながら生活するのは無理です。(70代以上)

(5) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「居住場所の確保について」が181件と最も多く、次いで「復興公営住宅への入居について」が157件、「復興公営住宅の建設地・形態等について」が100件などとなっている。

<図表3-5-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【居住場所の確保について】

- できれば浪江町に近い所で住みたい。中通りの気候は自分達にはなかなかなじめないし身体がついていかない。年老いてからの集合住宅での暮らしはきつい。(70代以上)
- 住宅建設(新規)したいと考えていますが、適当な所が見つかりません。宅地の情報提供があると助かります。(60代)
- 国や自治体で居住をなんとかしてほしい。せまくて荷物も増え他の家族が来てもいるところがない。1人1人の要望を聞いて住む所をさがしてほしい。(50代)

【復興公営住宅への入居について】

- 自分で住宅を建てることなどできないので、公営住宅を希望しています。(60代)
- 復興住宅に入る場合、浪江に住んでいた近所の方と一緒に生活できればと思っています。残された人生を楽しく暮せる、住宅環境である事を希望します。(60代)
- ペットを飼っている人と入居は一緒にしないで下さい。居住環境が悪くなりますのでよろしく願い致します。(70代以上)

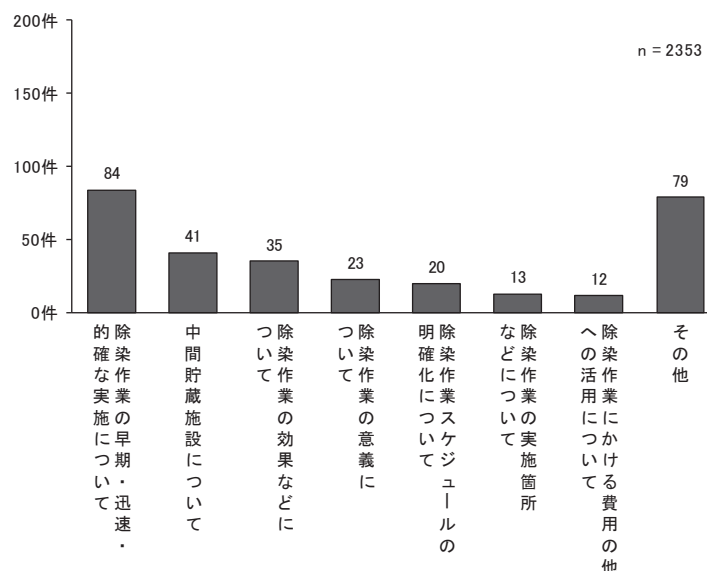
【復興公営住宅の建設地・形態等について】

- 福島市には多くの避難住民がいるのだから、復興住宅をもっと多く建設して頂きたい。(30代)
- 集合タイプを建設していますが、また、回りの人と付き合いをしたくない人もいます。戸建てタイプを建設したほうがいいと思う(30代)
- 浪江町の復興公営住宅の件で、普通の住民と高齢者だけの復興公営住宅も建設してほしいと思います。家内が身体が悪いのでバリアフリーの住宅を建設してほしいと思います。(70代以上)
- 5LDKなど、大人数で入れる公営住宅はできないでしょうか。(30代)

(6) 除染について

除染についての具体的な意見としては、「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」が80件と最も多く、次いで「中間貯蔵施設について」が40件、「除染作業の効果などについて」が33件などとなっている。

<図表3-5-7 除染についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【除染作業の早期・迅速・的確な実施について】

- 帰還困難区域だからと決めつけずに早く除染してらいたい。(60代)
- 原子力発電所の事故による汚染はきれいに片付けてもらいたい。(50代)
- 除染があまり進んでいないと聞く。もう少し早くできないものか、高齢者にとっては何年先になるのか、見通しができないので不安だけがつる。(70代以上)
- 復興の前堤となる除染について、国として改善する点は早急に決定して実施してほしい。復興の進行の妨げとなっている。(40代)

【中間貯蔵施設について】

- 中間貯蔵施設の現状説明会が、浪江町等の人間の参加ができないのが、おかしいのではないかと。(50代)
- 中間貯蔵施設を浪江町に建設しても良いのでは。(10~20代)
- 国も自治体も努力していると思うが、早く中間貯蔵施設を決め完成させてほしい。これが決まらなくては何事もできないと思う。車で走ると道路の近くに山と積まれた汚染土の入った布袋が目につく。決まれば汚染土の入った袋が目につかなくなり、次の仕事に入って行けると思う。(70代以上)

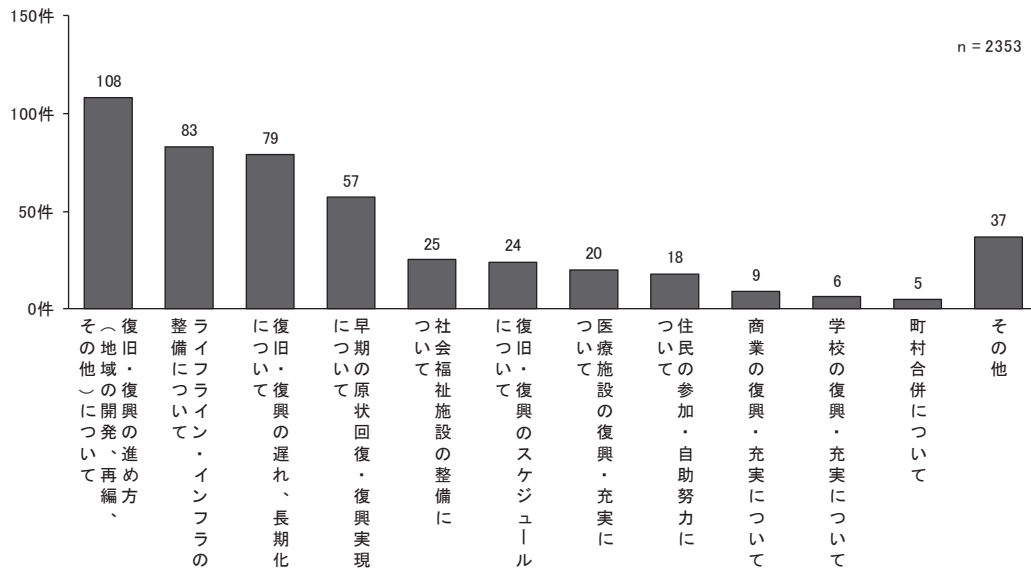
【除染作業の効果などについて】

- 浪江町長は数年後には浪江町に戻り、町としての機能を昔の様にしていきたいという意向ですが、除染作業として果たして人間が生活できる線量にする事ができるのでしょうか。私は除染作業は無駄な様に考えております。(70代以上)
- 除染をして帰そうとしているが実際除染の効果はあまり出ていないのは現状です。税金の無駄遣いの様な気がします。(50代)
- 各地で除染が進行中であるようであるが、家の外側のみで、家の中の除染に関しては、誰がやるのか？(自分で行うという見解らしいが)自分で除染を行って、それできれいになっているかどうかを知る方法は？家の外側、敷地だけ除染をすれば、人が住めるというものではないと思う。(50代)

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）」についてが108件と最も多く、次いで「ライフライン・インフラの整備について」が83件、「復旧・復興の遅れ、長期化について」が79件などとなっている。

<図表3-5-8 復旧・復興についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について】

- ・ 広野町から双葉町にかけて、人の往来や施設建設などがあり、復興の兆しが見えるが、原発の北側にある浪江町は取り残されている感じがある。数年後「復興に失敗した町」として名前が上からないようにしてほしい。(40代)
- ・ 将来の見える復興を要望したい。ただ元に戻すのではなく、将来の子ども達に希望を与えられる様な町づくり、町民が喜んで住める町に希望します。(50代)
- ・ 若者がもどってくる町環境整備がなければ町の復興は、難しいと考えます。町で働ける場所、企業が入って来なければ若者、若い世帯はもどって来ない。インフラ整備、安全対策とともに、働ける企業導入がぜひとも必要です。浪江町民でなかった人々が浪江でくらししてみようかというような従来の浪江町という考えでない新しい浪江町づくりをめざしていくような町づくりを期待しています。(50代)
- ・ 町に「帰還する」or「帰還しない」という意向にそって復興計画を考えるのではないと思います。町に土地や家屋がある人にとっては、またその町に深い思いのある人にとって何年かかってももどることが当たり前だと思います。復興計画は現実的に細かく、その都度修正しながら具体的に作成していくものだと思います。(50代)

【ライフライン・インフラの整備について】

- ・ 浪江町に帰る時に114号線を通ります。大型トラックとすれ違うことがあり、ヒヤヒヤします。114号線とは別に、工事車の専用道路を作って欲しいと思います。再び原発事故が起こった時に、それも避難道路として使用できます。(50代)
- ・ インフラ（上・下水道を）もっと積極的に進めてほしい。町は遅すぎる。ゼネコンに依頼すれば半年でできると専門家は言っています。ぜひ早く取りかかって下さい。(50代)
- ・ 車もないし、電車も通っていない。町に入るのも大変です。老人夫婦では何もできない。電車が通ってくると時々浪江に行ってかたづけたりできるのですが…。(70代以上)

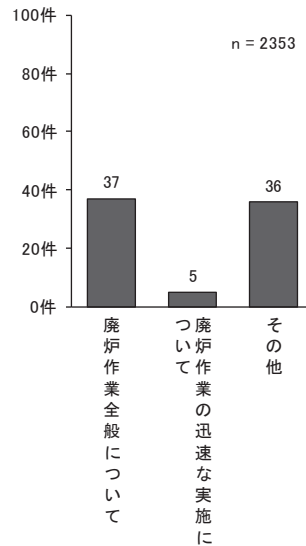
【復旧・復興の遅れ、長期化について】

- 復興の進み具合がわかりにくいのでぜんぜん復興しているような気がしない。(30代)
- 国では復興が再優先と言っていますが、現実はどうでしょうか、人材資材不足と言われる時、オリンピックの為に工事にむけられ、自力で再建をしてもなかなか工事が進まない状況。また、津波災害の地では住む事ができません。町の住民がよりそって生活ができる場所を一日も早く確定して浪江町として残れるよう願っています。(70代以上)
- 帰還困難区域の家に一時帰宅するのに通過する国道114号沿の建家、農地など見る限り、解除予定まで二年半となるが、除染家屋の修繕など復旧、復興の進捗はほとんど見えてこない。今後の生活再建判断にもスピードをもって行ってもらいたい。(60代)
- 復興を早めて欲しい。すべて後手後手になっている様に思う。まだ3年しか過ぎていないのではありません、もう3年が過ぎたのです。今頃になって住民意向調査はおそすぎると思います。置き去りにされている気持ちです。(60代)

(8) 原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業全般について」が37件と最も多く、次いで「廃炉作業の迅速な実施について」が5件などとなっている。

<図表3-5-9 原発の安全性についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【廃炉作業全般について】

- 凍土壁のやり方は、素人が考えても無理がある。お金をかけても確実な方法を取れと県や国は東電にはたらしかけるべき。(40代)
- 原発の廃炉作業にむけた建屋カバー等の撤去作業は9月頃より次年の4月頃の間にする様、申し入れてほしい。県、国等など。(70代以上)
- 賠償に差をつけたり、いまだ汚染水すら管理できない東電に今後、何の事故も起こさず、安全に廃炉作業などできるのだろうか？(60代)

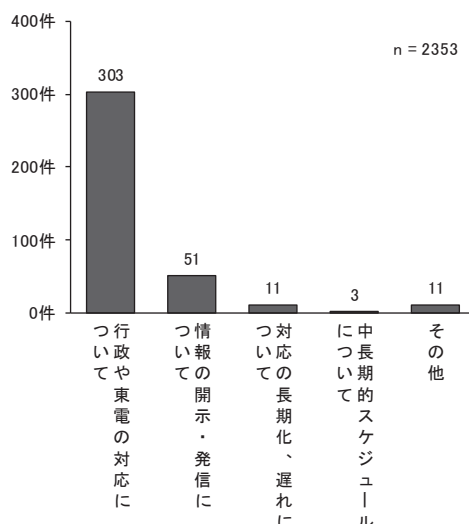
【廃炉作業の迅速な実施について】

- 居住環境として良い所(浪江町は)です。早く原発廃炉、町の復興を願います。(40代)
- まだまだ1Fは放射線物質を出し続けているのです。早くなんとかして下さい。(60代)
- 早急に原発を安全なものにしてもらいたい。最近ニュースにとりあげられなくて、不透明すぎる。(70代以上)

(9) 原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が303件と最も多く、次いで「情報の開示・発信について」が51件、「対応の長期化、遅れについて」が11件などとなっている。

<図表3-5-10 原発事故に対する対応についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政や東電の対応について】

- 原発事故避難者への対応が遅すぎる。自然災害の方たちの方が公営住宅などの対応が早いには納得がいかない。国と県には原発事故に対して責任を持って対策を進めて欲しい。事故前の「安全」「安心」といった安全神話を作った事に対して責任を自覚していない。東電を隠れ蓑にしているが、国と県が一番悪い。(60代)
- 大熊、双葉、富岡に比べいろいろな面で浪江町は県及び国から見はなされている感じがする。原発の立地地域でないからなの？(60代)
- 震災原発事故から3年5ヶ月が経ち、調査計画から計画実行の時期にきていると思う。行政、地元首長は調査だけではなく、具体的、実現性のある将来像を提示する番である。(40代)
- 我が浪江町だけでなく被災町村すべてが今後の双葉地方のあり様について情報を共有し、話し合いをする事が大事だと思います。(年齢不明)

【情報の開示・発信について】

- 無理な事とはわかっているが、フォトビジョン等町民に配るといっても、県外に避難してから一度も情報を頂いてない。県内と県外で情報提供に明らかに知り得る情報に差がある。(30代)
- 計画は発表されるが、結果について発表がない。アンケートばかりで本当に町民の心を分かっているのか。(60代)
- 要望として現在空間線量は計っているが、各町村の土壌の線量がどの程度なのか知りたい。(50代)

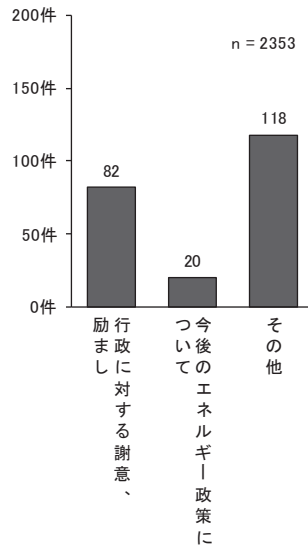
【対応の長期化、遅れについて】

- すべてが遅いと感じます。除染、除染後の廃棄物の処理、復興公営住宅も、すべて。いつまでも時を止めてはられないのです。(30代)
- 行動が遅いから、やる事が後手後手となって何もできなくなってしまう。住民より一歩先の事を考えてほしい。こんな事をやっていたら住民は帰還しなくなってしまう。(60代)

(10) その他

その他についての具体的な意見としては、「行政に対する謝意、励まし」が82件と最も多く、次いで「今後のエネルギー政策について」が20件などとなっている。

<図表3-5-11 その他についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政に対する謝意、励まし】

- 現在不自由と思うことはありません。一時帰宅や自宅訪問の時にお世話になる県や町の職員の方には大変感謝しております。(50代)
- 浪江町民、行政職員、議員さん、町長さんすべての人を応援しています。私も一緒に前を向いて頑張りたいと思います。(年齢不明)
- 子ども達のために私達もふんばっていかねばと節に思う。行政の方々も大変かと思うが、頑張してほしい!!(70代以上)
- 浪江町の復興のために、町役場職員をはじめ、町内の商工会や各団体の方々が、大変頑張っておられ、心強く思います。県内の復興は、まだまだ、道半ばですが、どうか決してあきらめず、頑張してほしいと思います。私も浪江町の復興のためにこれからも応援していきます。(40代)

【今後のエネルギー政策について】

- 原発の再稼働や他国への売り込み等、地震より島、原発列島の状態が続くことから将来日本の国が消滅する恐れが頭から離れられない。人間の力では制御不能な事から手を引いてほしい。(70代以上)
- 3年半たっても放射能漏れを止める事ができないのに原発を輸出するのは、未来の人類に対する犯罪です。せめて輸出は放射能を制御できるようになってからにしてほしいです。(70代以上)
- 原発の再稼働には断固反対！日本には不要。すぐに廃炉にすべき。有事の際に何もできないことは、今回の件で証明されている。(40代)